

<羊を養うイエスさま>

マルコ6：30～44



- 1 2弟子に休みを与えるために、人里離れた場所へ移動。しかし、いつも群衆が先回り。イエスは、舟から上がられると、多くの群集をご覧になった。そして彼らが羊飼いのいない羊のようであることを深くあわれみ、いろいろと教え始められた。【34節】
深く憐れみ・・・はらわたがちぎれるような痛み

「羊飼いのいない羊」

どう生活したらよいのか、何が自分に必要なのかわからないので、迷い悩む霊的な孤児。「帰るべき場所」がわからない。

旧約聖書にも「羊飼いのいない羊」の状態があった。

バビロン捕囚時代の預言者エゼキエル

まことに、神である主はこう仰せられる。見よ。わたしは自分でわたしの羊を捜し出し、これの世話をする。 エゼキエル34：11

わたしは、彼らを牧するひとりの牧者、わたしのしもべダビデを起こす。彼は彼らを養い、彼らの牧者となる。 エゼキエル34：23

救い主、イエスキリストの到来について語った。

イエスさまはみことばを教え始め、群衆は熱心に聞いた。時の立つのも忘れて…。弟子達は期待していた休みを得ることができないまま、この場にいた。

疲れていた！ お腹も空いていた！ イライラしていた？！

弟子達「ここはへんぴな所で、もう時刻もおそくなりました。みんなを解散させてください。そして、近くの部落や村に行って何か食べる物をめいめいで買うようにさせてください。」

イエス「あなたがたで、あの人たちに何か食べる物を上げなさい。」

弟子達「…！？」

弟子たちも疲れて、カツカツ。それなのに何故このようにいわれたか。

現実には「不可能」を指し示している。しかし、どうしても必要。
どうしたら良いのか？

「無理にきまっている」とあきらめていた弟子達。しかしイエスは…
イエスは彼らに言われた。「パンはどれぐらいありますか。行って見て来なさい。」
彼らは確かめて言った。「五つです。それと魚が二匹です。」【38節】

するとイエスは、五つのパンと二匹の魚を取り、天を見上げて祝福を求め、パンを裂き、人々に配るように弟子たちに与えられた。また、二匹の魚もみなに分けられた。

人々はみな、食べて満腹した。

そして、パン切れを十二のかごにいっぱい取り集め、魚の残りも取り集めた。

パンを食べたのは、男が五千人であった。【41～44節】

「5千人給食」の奇跡は、イエス・キリストとは誰であるかを示している。

- ◆イエスさまは、「人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出るひとつひとつのことばによる」と申命記8章のみことばを引用して悪魔の誘惑を退けた。(マタイ4:4)
生きていく上でパン(糧)は必要なもの。しかし、人はただ食べて生きればよい存在ではなく、神の言葉によって真に生きる存在となる。

イエスは言われた。「わたしがいのちのパンです。わたしに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者はどんなときにも、決して渴くことはありません。」ヨハネ6:35